



第8回 建て替え準備委員会資料

渋谷区小中一貫教育校(千駄谷小学校・原宿外苑中学校)建築工事

30 Jul 2026

第8回 建て替え準備委員会 説明内容

1 開会

- ・委員及び事務局の紹介
- ・要綱の改正について

2 議題

(1) 建て替え準備委員会のスケジュールについて

(2) 基本設計の中間報告

A. 基本計画からの主な変更点

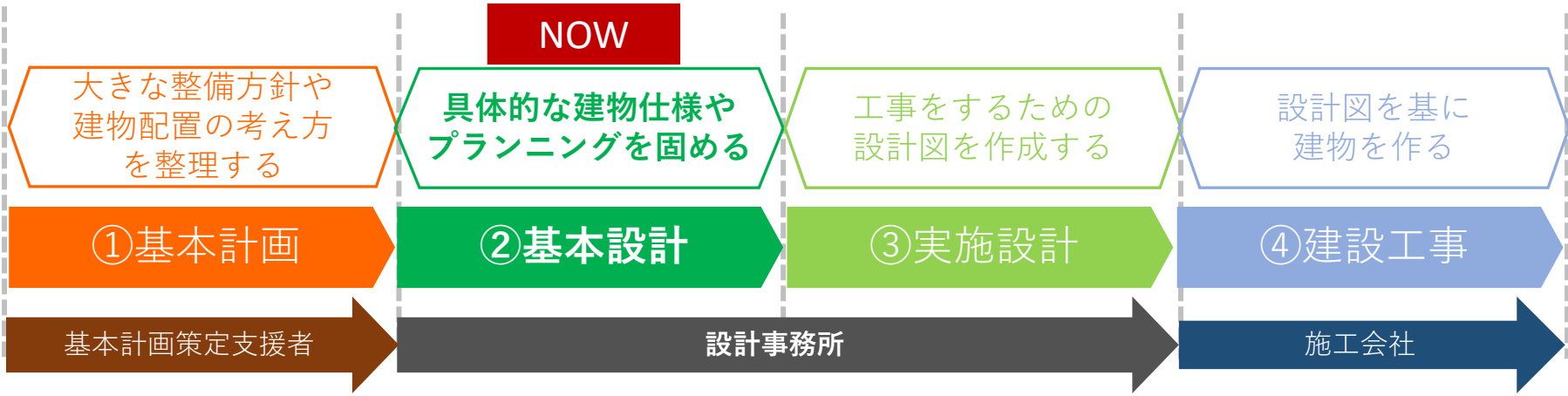
B. 多様な学びをささえる新しい教育環境

C. 基本計画段階における委員会意見への対応

(1) 建て替え準備委員会のスケジュールについて 2026.07.30 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

	日程/時期(仮)	議 題(仮)
第1回	10/31(木) 14:30~16:00	・ご挨拶、委員、事務局の紹介 ・建て替え準備委員会の設置及び会議の運営について ・渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について ・渋谷区小中一貫教育校(千駄谷小学校・原宿外苑中学校)建て替えの概要 ・既存施設と法的規制について ・次回の主な議題について
—	①11/19(火) ②11/28(木) 16:00~17:00	・渋谷本町学園視察
第2回	12/10(火) 15:00~16:30	・渋谷本町学園視察について ・第1回建て替え準備委員会の振り返り ・必要諸室について
第3回	3/3(月) 15:00~16:30	・学校環境の整備方針 ・ラーニング・コモンズの使い方 ・地域開放の考え方
第4回	5/21(水) 15:00~16:30	・建物配置について ・学校施設の機能ゾーニング
第5回	7/1(火) 15:00~16:30	・基本計画(素案)の説明 ・アンケートの実施について
第6回	9/25(木) 15:00~16:30	・アンケートの結果について ・基本計画(案)の説明
基本計画 説明会	12/22(月) 19:00~20:00	・基本計画の説明
第7回	2/5(木) 15:30~16:30	・基本計画説明会の報告 ・基本設計者決定の報告
第8回	7/30(木) 15:00~16:30	・基本設計報告(中間)
第9回	12月頃(予定)	・基本設計報告

建て替え準備委員会にて出た“計画に関わる各ご質問やご意見”は、事務局側で整理し、各フェーズで適切に対応していきます。



R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
基本計画	基本設計	実施設計	解体・建設工事							一貫校開校

※建て替えスケジュールは現時点での想定であり、今後の詳細検討により前後する場合があります。

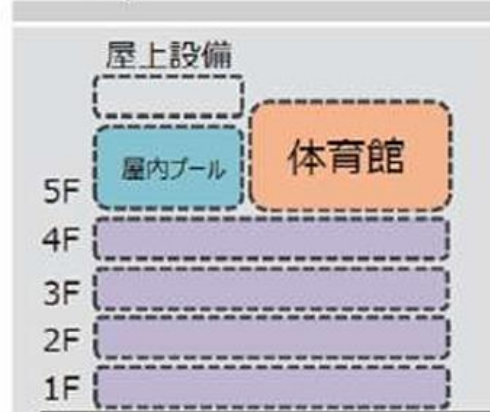
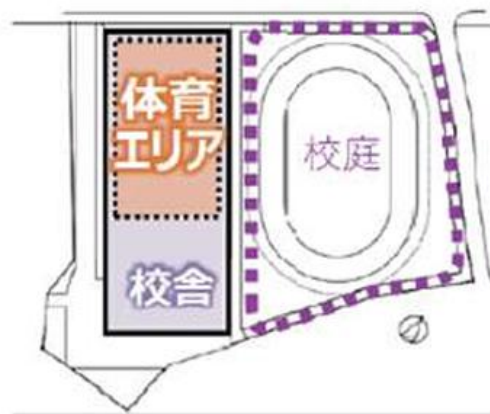
A. 基本計画からの主な変更点

B. 多様な学びをささえる新しい教育環境

C. 基本計画段階における委員会意見への対応

基本計画案

基本計画案



約4650㎡ (概ね整形)

150mトラック

(内周計測)

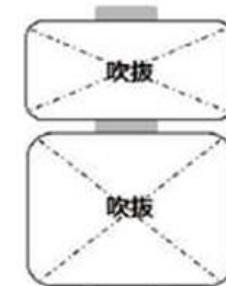
レーン幅1.2m×6レーン



4階イメージ



5階イメージ



6階イメージ



1階イメージ



2階イメージ



3階イメージ



地下1階イメージ

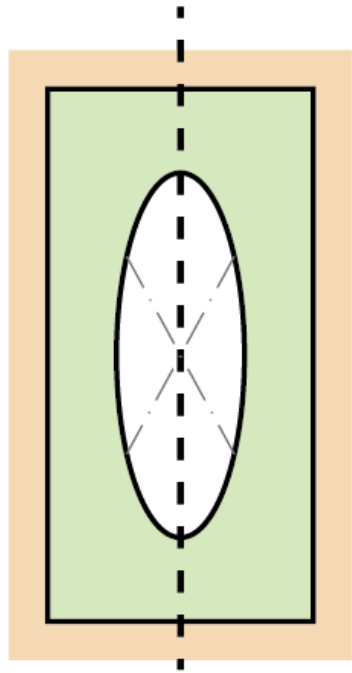
【凡例】

教室 (普通教室・少人数教室・特支等)	給食関連
ラーニング・コモンズ、図書スペース	体育関連
特別教室	プール関連
管理諸室	放課後クラブ
	階段・EV・トイレ等
	主出入口

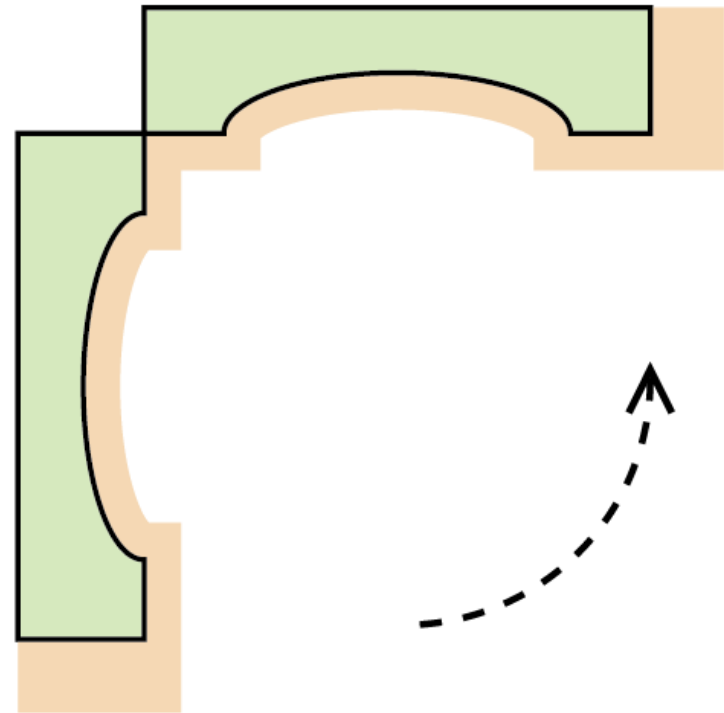
図V-2-4 機能配置イメージ案

基本計画案 ➡ 今回提案 平面形状の変遷

基本計画の建物配置では、中央部に採光を確保するため、吹抜けを検討していましたが、音の伝搬や採光を考慮し、建物配置の形状を見直しました。

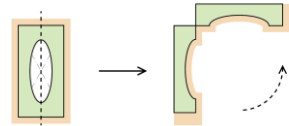


基本計画案



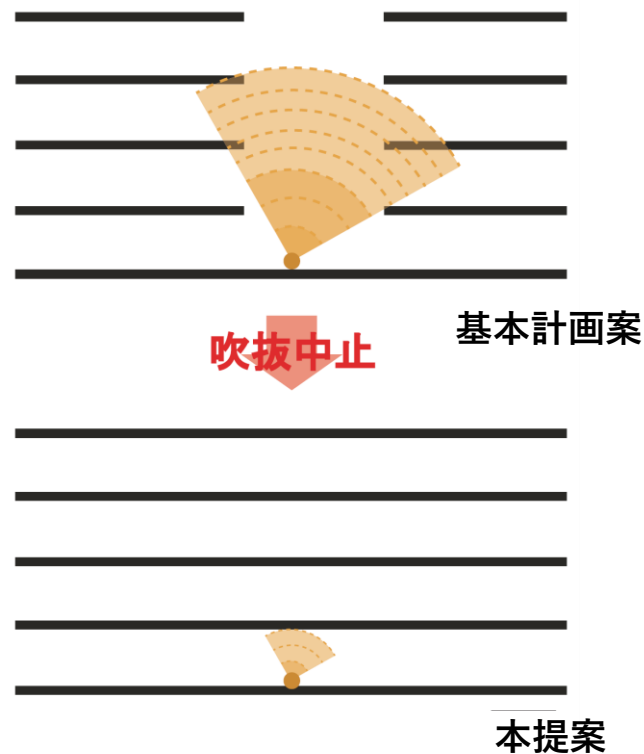
本提案

基本計画案 ➡ 今回提案

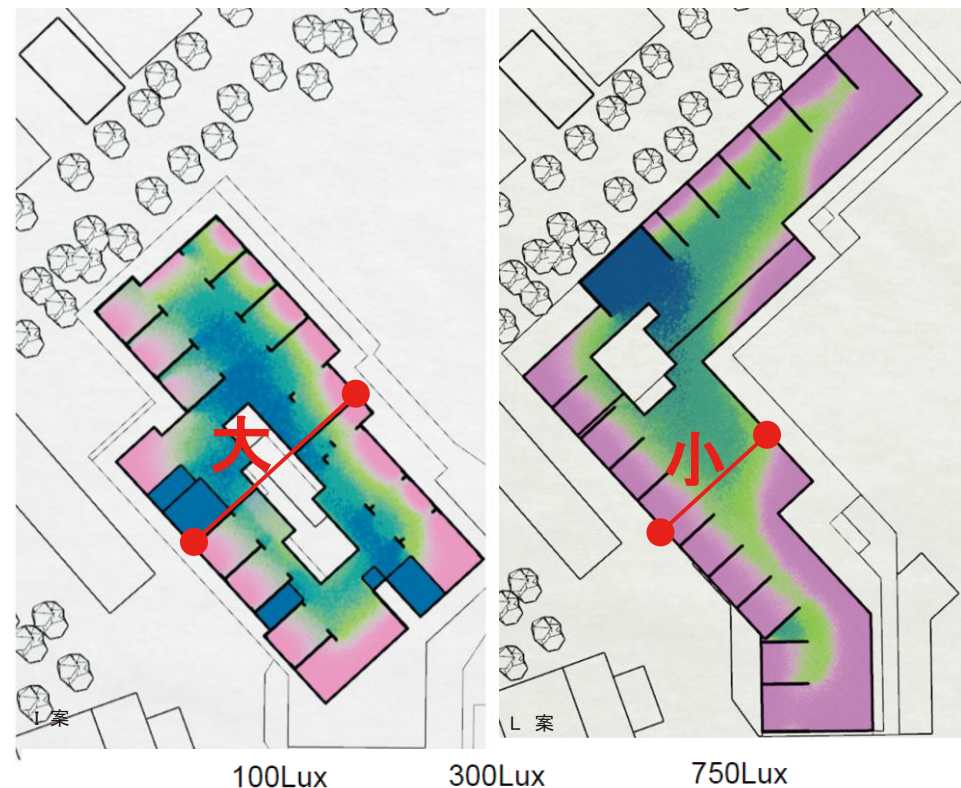


I.吹抜中止により音の伝搬が少なくなり、II.片側廊下により採光を確保できるようになります。

I.吹抜が無くなり音の伝搬が少なくなる



II.片側廊下により明るい学習空間になる



← 暗い → 明るい

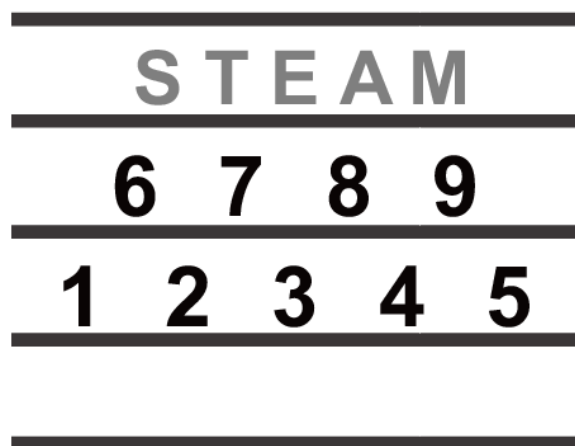
A. 基本計画からの主な変更点

2026.07.30 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

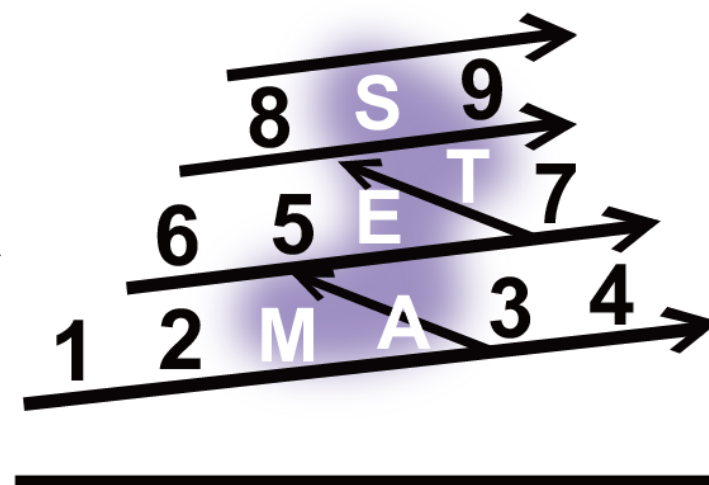
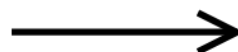


* 設計検討中につき変更の可能性があります。

床に傾斜をつけ、縦横に繋がりのある空間を創出することで、異学年交流を促進します。



水平型



ランドスケープ型

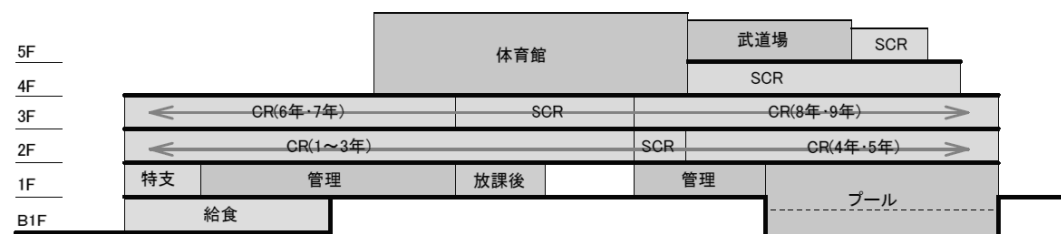
* S T E A M : 科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術 (Arts)、数学 (Mathematics) に関する特別教室群

* 1～9: 各学年の普通教室

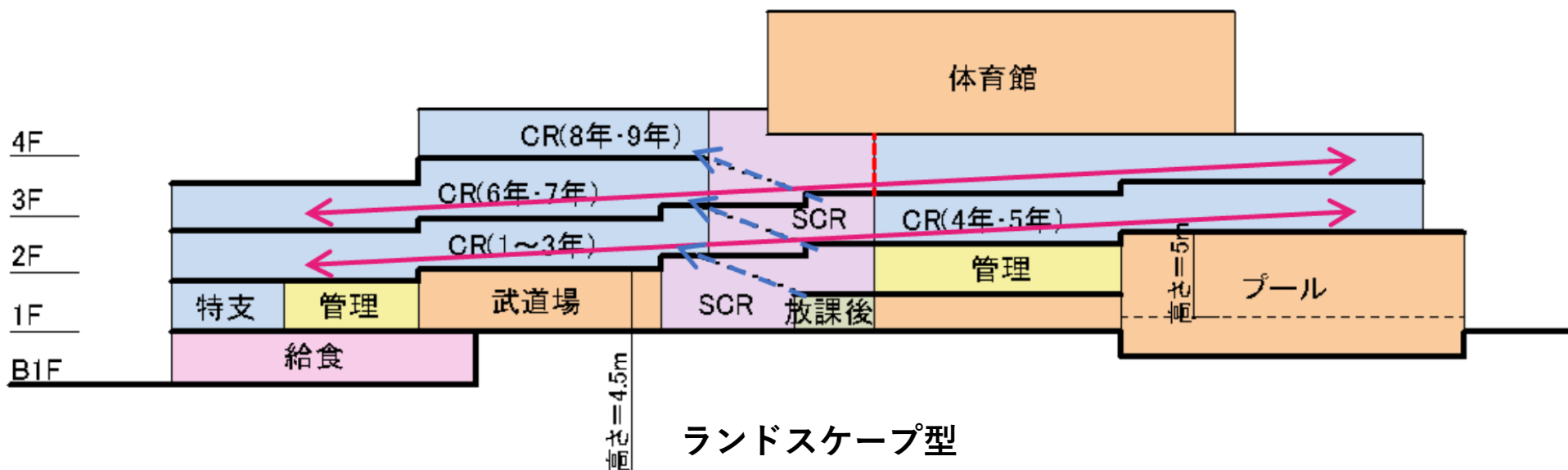
* ランドスケープ型: 床にゆるやかな傾斜をつけることで縦横につながりのある空間をつくった本提案の名称

傾斜により生まれたスペースに、高さの異なる諸室を配置することで階数減（5階建て→4階建て）につながります。

Ⅱ.断面構成の検討



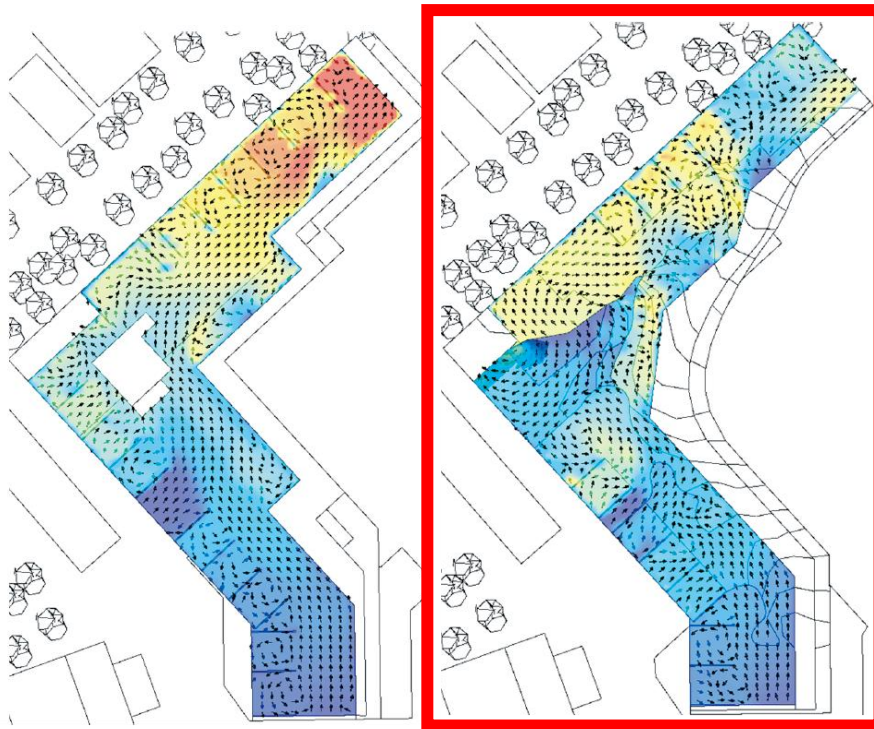
水平型



緩やかな傾斜により自然な空気の流れが生まれ、校舎全体を快適な環境に保つことができます。

I. 換気シミュレーション

南風



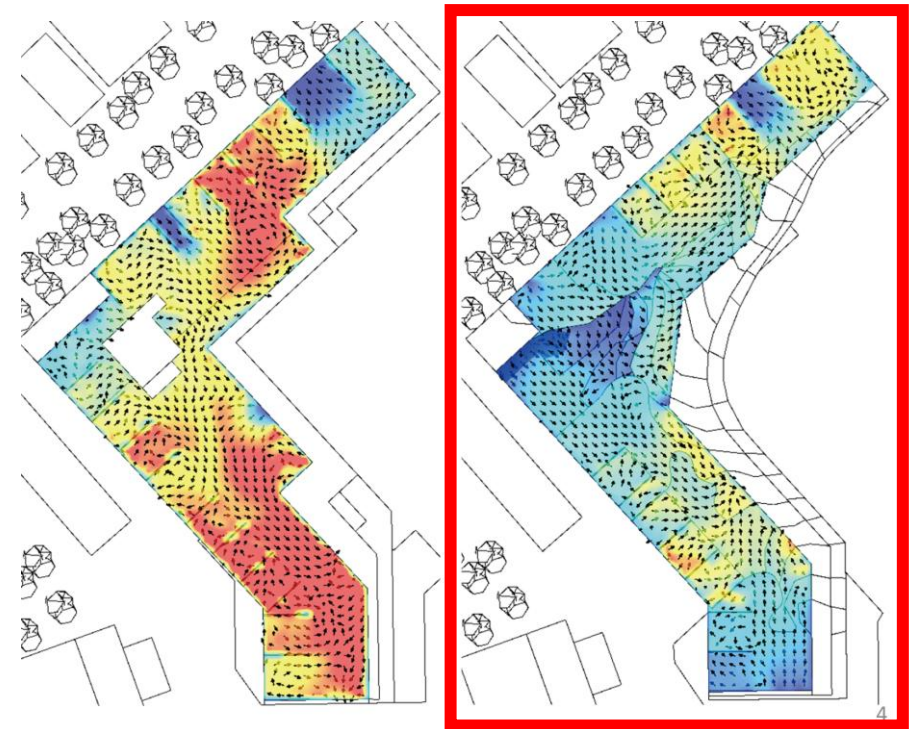
水平型

STEAM				
6	7	8	9	
1	2	3	4	5

ランドスケープ型



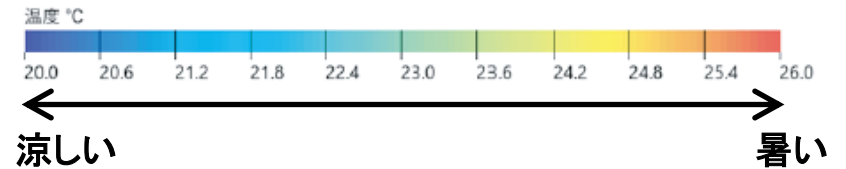
北北西風



水平型

STEAM				
6	7	8	9	
1	2	3	4	5

ランドスケープ型

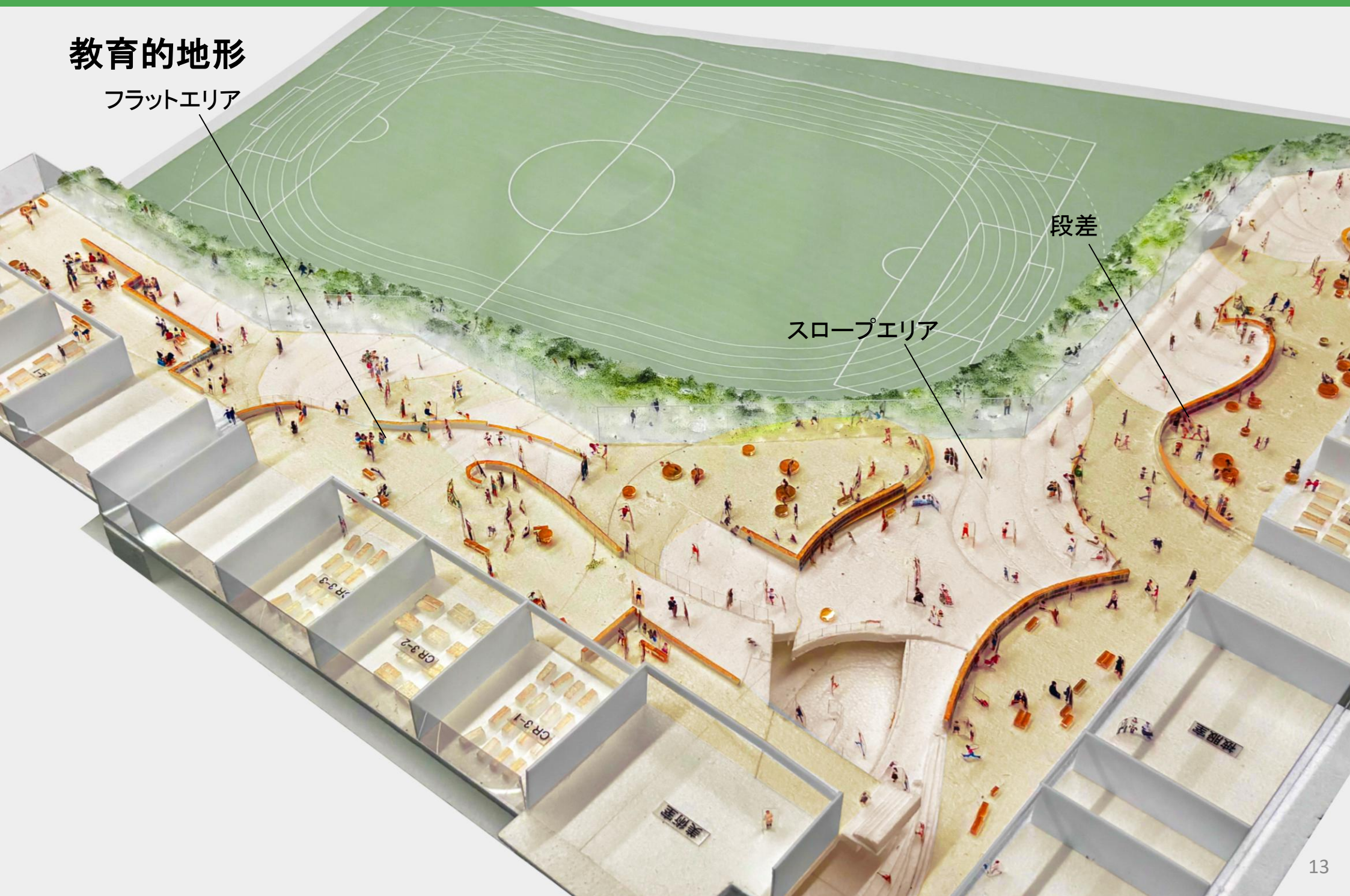


教育的地形

フラットエリア

段差

スロープエリア



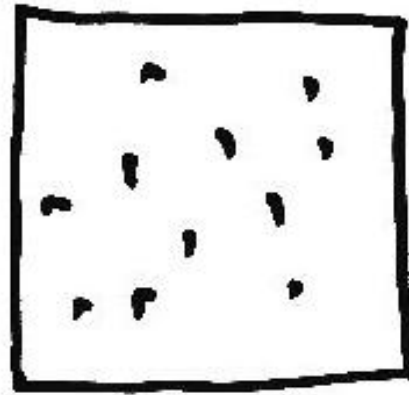
A. 基本計画からの主な変更点

B. 多様な学びをささえる新しい教育環境

C. 基本計画段階における委員会意見への対応



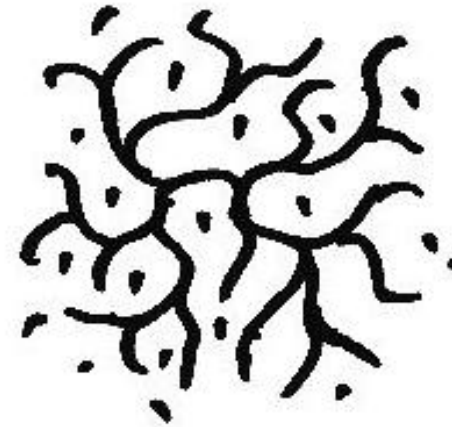
“〈からまりしろ〉 = 触発されるきっかけをつくること“



20c

Efficiency

Categorization



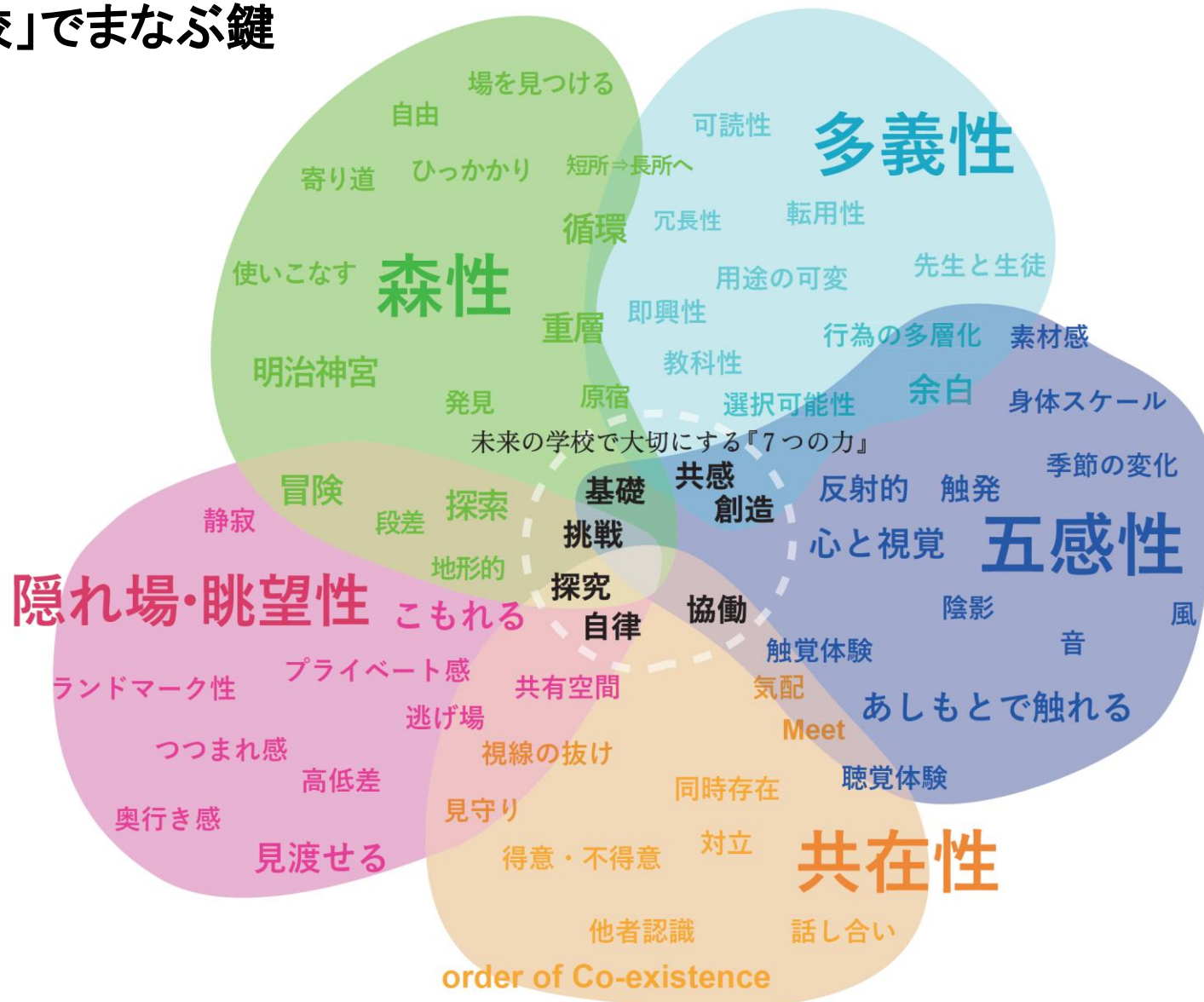
21c

Polysemy

Entanglement

未来の建築は自然環境に近づく

「未来の学校」でまなぶ鍵



これから作る、「未来の学校」の評価軸として、以下を考えることとした。

- ①子供にとって
- ②先生にとって
- ③2030年、これからの教育に対して

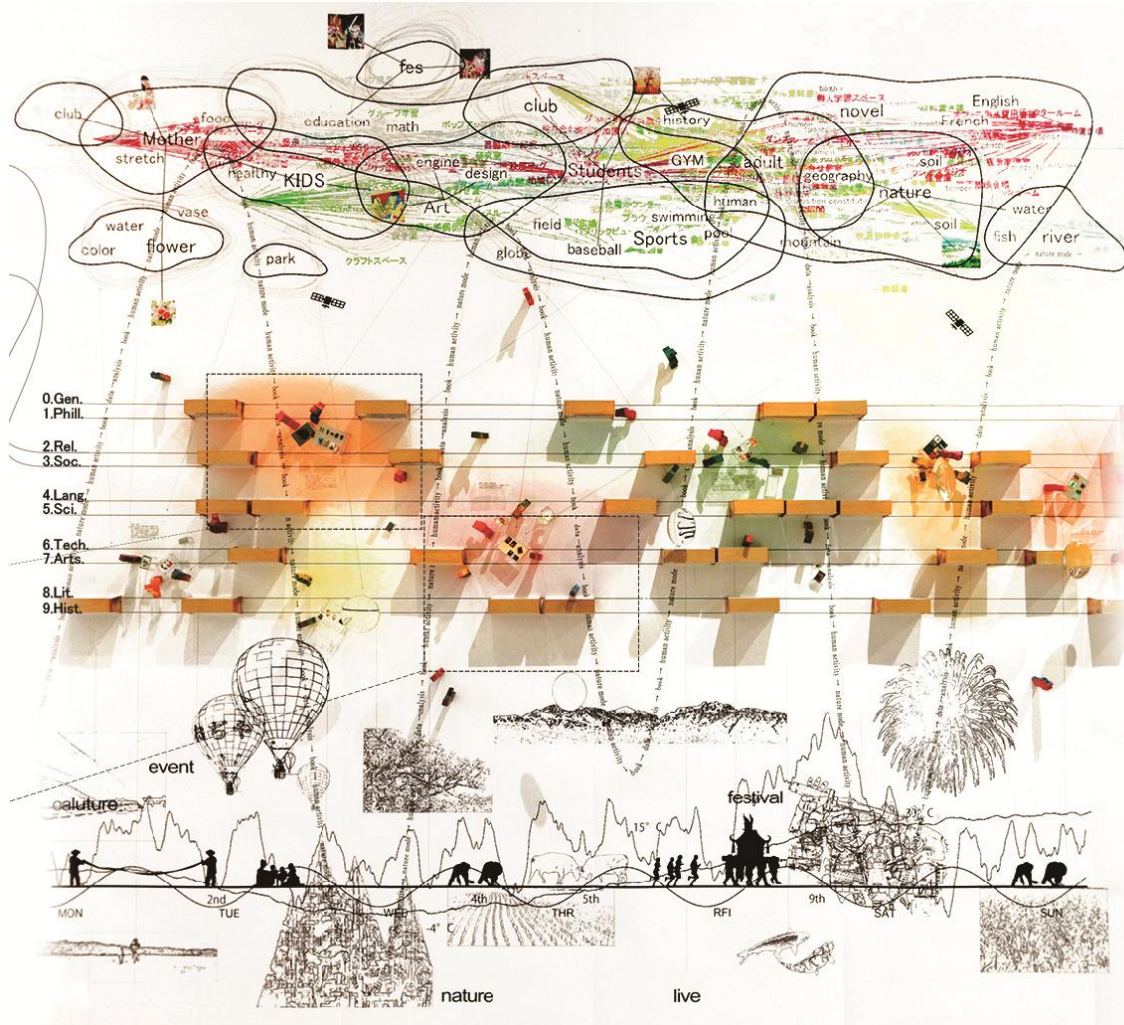
「未来の学校」でまなぶ鍵-森性

循環
森性
地形的
神宮の杜
探索
寄り道
重層



「未来の学校」でまなぶ鍵-多義性

多義性 冗長性
即興性 行為の多層化
可読性 用途の可変
転用性



フロートと呼ばれる可動書架を動かすことで、場所そのものに可変空間を生み出す
小千谷市ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ。/平田晃久建築設計事務所/新潟県

「未来の学校」でまなぶ鍵-共在性

共在性 共有空間
気配
Order of Co-existence
他者認識 話し合い
同時存在



「未来の学校」でまなぶ鍵 -隠れ場・眺望性

隠れ場・眺望性

- 視線の抜け
- プライバシー
- かくれられる
- みまもり
- 奥行き感
- 静寂
- 高低差



「未来の学校」でまなぶ鍵

令和8年度 7つの力を育むための重点的な取組

基礎

探究

自律

協働

共感

創造

挑戦

重点取組
01

子ども主体の「未来の学校」づくりの推進

全ての学校で、教育大綱に掲げる、「つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。」を実現するため、子どもたちが主体的に自校の運営に携わったり、学びを自らつくり出したりする力の育成を目指します。具体的なアクションのため、子どもたちが本音を自分の言葉で語り合う対話の場を設けます。そして、子どもたち、先生たち、地域が、一緒になって未来の学校をつくりあげます。これにより、子どもたちが将来、社会参画し、自らの手で未来を切り拓く力を養います。

重点取組
02

一人ひとりの“ちがい”が活きる新たな学び・探究の推進

個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの視点から、客観的な根拠を踏まえた学びの変革を進め、自律した学習者として自ら考え判断して学び続ける力、多様な仲間と協働して新たな価値を創造する力、自分が思い描く未来の実現のために挑戦する力を養います。また、架け橋期の連続性を確保し、幼児期からこれらの基礎を培います。その実現にむけて、子どもたちが、自ら問いを立てて楽しく学べる支援者としての教員を育成します。

重点取組
03

誰でも安心・安全に挑戦できる教育環境の整備

人はみんな違うという多様性を理解し、互いを大切にして互いのがんばりを応援し合える教育を目指します。教育活動全体を通して、子どもたちが自分の行動に責任をもち、共感、思いやりの心を大切にしながら他者と十分に関われるような機会を重視します。また、どの子も安心して学んだり、自分の力を出したりできるように、安心・安全な教育環境を子どもたちと一緒につくります。

重点取組
04

テクノロジー活用によるDXの加速化と教員の働き方改革の推進

テクノロジーを活用したDXの推進により、教職員の業務負担を軽減し、教育の質の向上につなげます。また、教職員がチームとして組織的に、新しい取組に挑戦したり、学校で生じる様々な課題に対応したりすることを通して、教員としてのやりがい、達成感、成長を感じられる環境や制度を整えます。

重点取組
05

地域と子どもの未来を共創する学校づくりの推進

コミュニティ・スクールとしてまちぐるみの協力を得ながら、子どもの育ちを支え、地域と共創し、探究する学校づくりを目指します。また、教育課程外でも子どもたちが健やかに成長できるよう、小学校で朝に安心して楽しく過ごせる見守り体制の整備や放課後の豊かな体験機会を創出するとともに、地域が支える部活動改革に取り組む、子どもたちが大人と一緒にスポーツや文化活動に楽しく挑戦できる環境の充実を図っていきます。

教育とオープンスペースの関係の変遷

傾斜型の学校は、教育空間の歴史の流れにおいても新しい空間であると考えます。



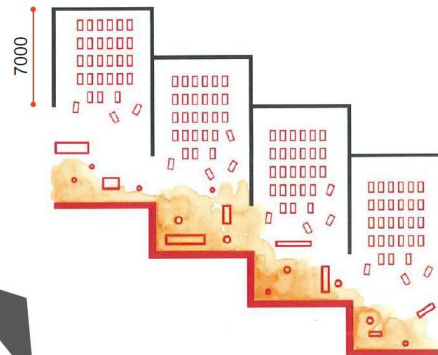
他の学級への遠慮でどう使っていないかわからない共用部

1. 直線型
1960 代



教室前の空間も「自分の学級」と感じられるが、面積が十分でないと手狭な空間

2. 雁行型
1980 代

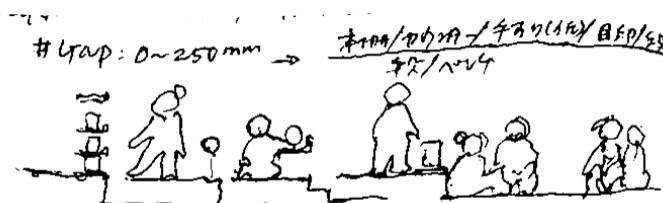
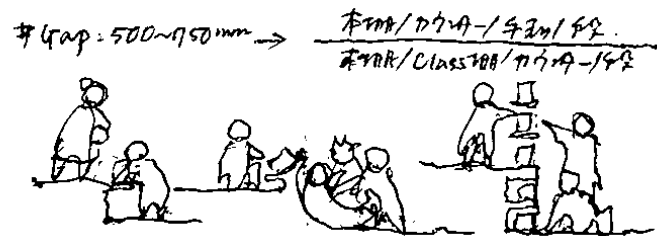


3. 傾斜型

未来の学校

段差や曲線で緩やかに領域を示し、教室前のスペースに縛られない空間選択を可能にすることで、主体的な学びを支える教育環境を実現

「段差に座ってみる」、「少人数で集まってみる」、「洞穴のような空間で集中してみる」
いつもワクワクする空間が見つかります。



掘り込まれた場所は
個人だけの空間

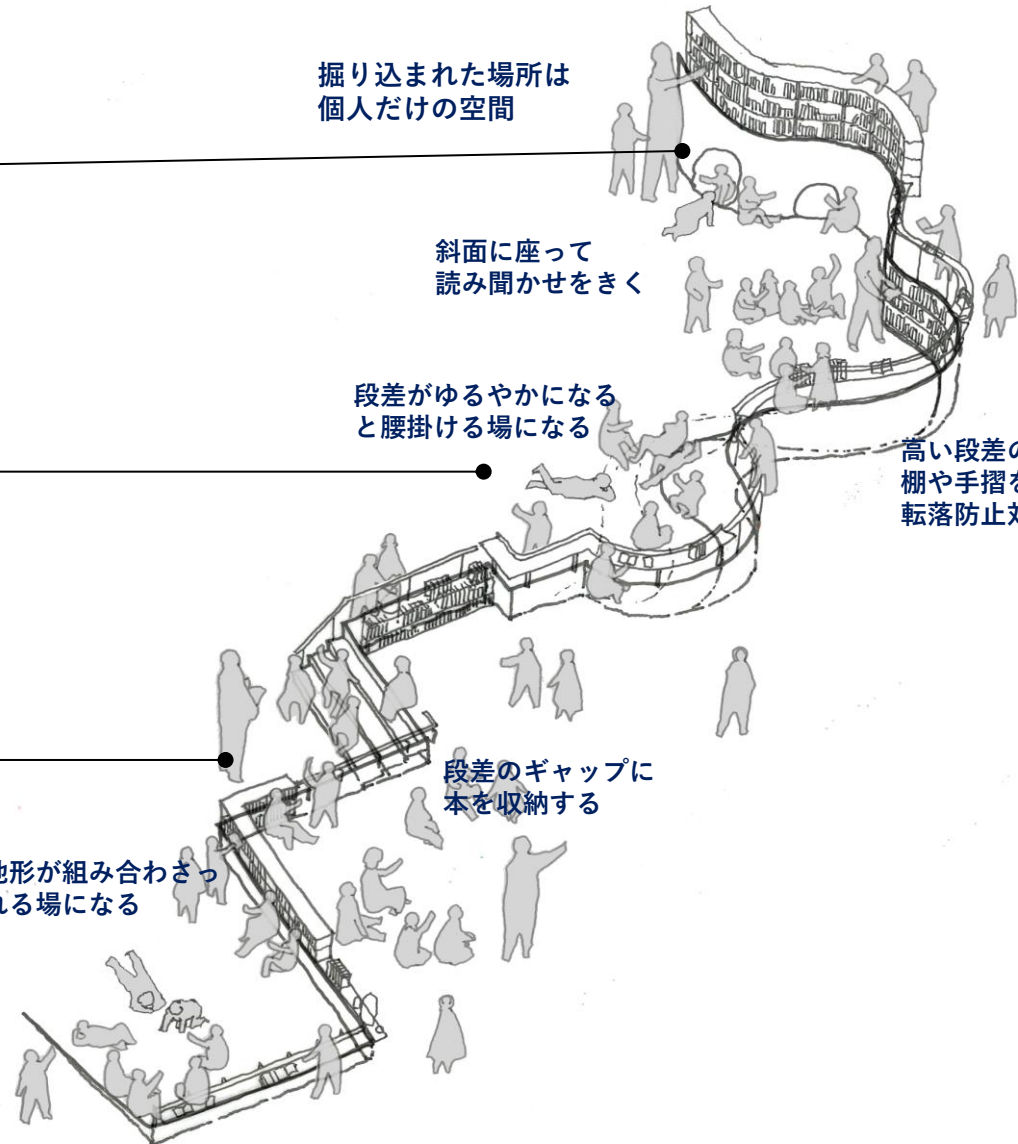
斜面に座って
読み聞かせをきく

段差がゆるやかになると
腰掛ける場になる

高い段差の部分には本棚
や手摺を設置して、
転落防止対策をする

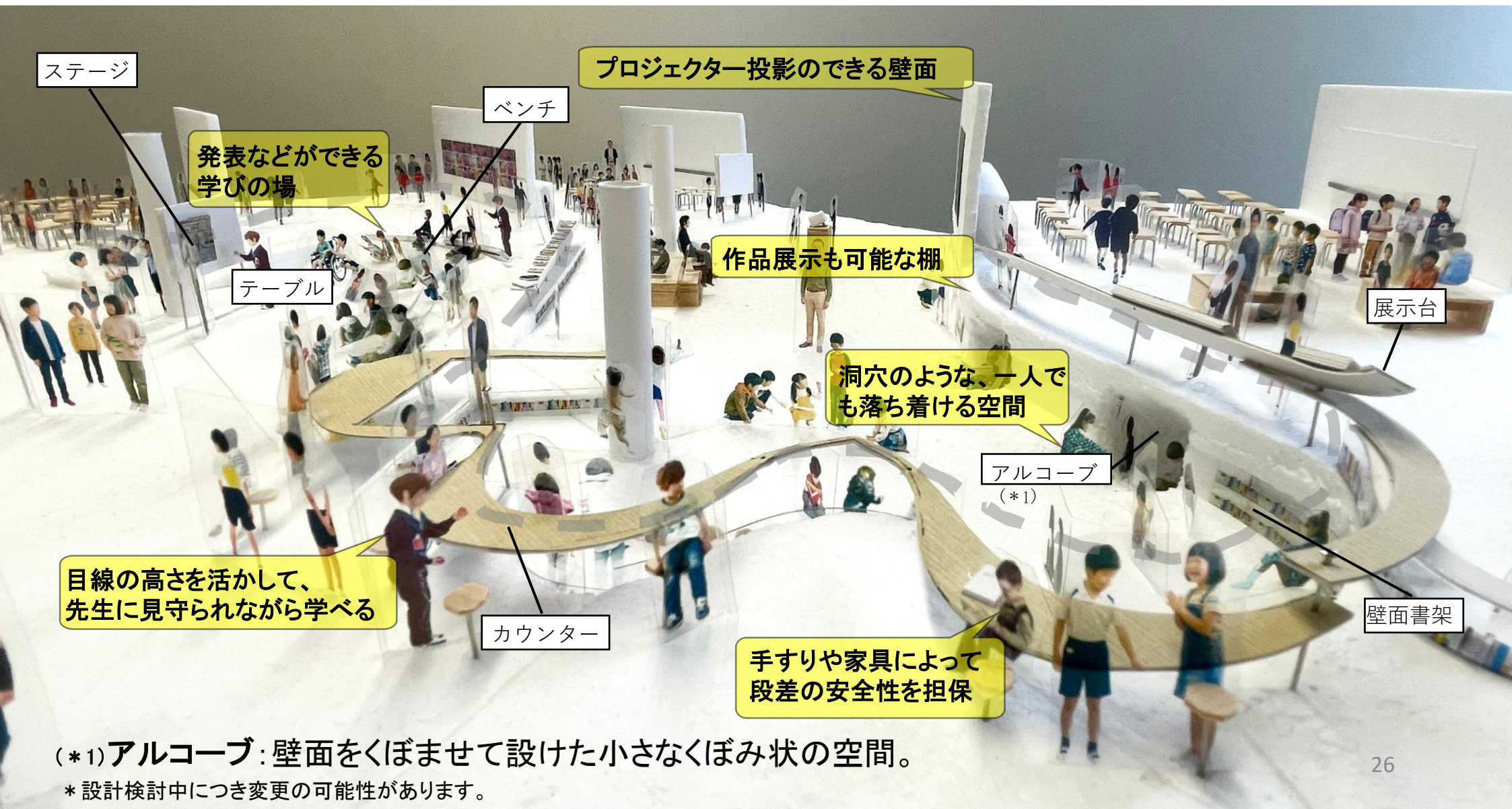
段差のギャップに
本を収納する

段差と地形が組み合わさって
使われる場になる



空間の使われ方

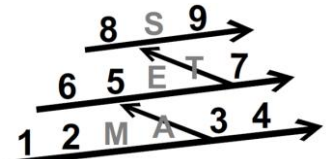
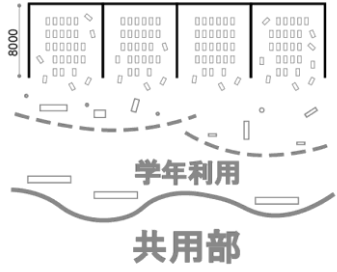
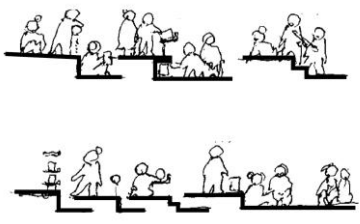
段差を使って子供達がディスカッション・個別学習・発表など、主体的・自律的に様々な方法で、学習ができます。



段差の使われ方



ゆるやかな傾斜や段差は、多くの教育的効果を生み出します。

	現象	教育的効果
	異学年交流につながる	偶発的な学び、社会性向上、 発見の増加
	学校全体が <u>普遍的な環境</u> 車椅子利用者も同じ動線移動が可能	共生社会への理解、 <u>他者理解・ 協働意識</u> の向上
	<u>連続的な学びの場</u>	出会い、 <u>思いがけない発見</u>
	居場所づくり <u>場所の選択性</u>	主体的な学び、集団活動の推進 安心感の獲得 探究授業の活発化
	<u>一望性</u> が高い <u>お互いの活動を見る</u> 教職員による児童生徒の <u>見守り</u>	<u>先生の配置のしやすさ</u> (学習効 率向上) <u>学習意欲の向上</u>
	移動と活動の <u>境界があいまいになる</u>	<u>場の選択力</u> の向上
	<u>段差を利用した発表の場</u>	<u>発表能力</u> 向上
	多様な動き(身体性認知)	脳の活性化、空間把握能力
	姿勢の <u>多様性</u> (段差寸法による座り方の違い、 勾配を利用したビーズクッションなど)	<u>個性に合わせた姿勢</u> による学習 効率UP
	<u>学習空間の多様性</u> 山に <u>みたてる/野の中で学ぶ</u> 環境からの <u>誘い(行動を促す形・性質)</u>	<u>主体的な学び</u> 、創造的思考を 生み出す <u>多角的視点の獲得</u>
	<u>場所性(原宿)/街の身体感覚に近い</u>	街の個性の理解

これから作る、「未来の学校」は下記のようになります。

- ①対話や気づきを通じて子供の主体性を育み、将来の国際社会で発信できる力を伸ばしていく
- ②教師の柔軟性をたかめ、挑戦し、次なる現場へと循環させる
- ③新しい教育が渋谷区を原点に発信されていく

A. 基本計画からの主な変更点

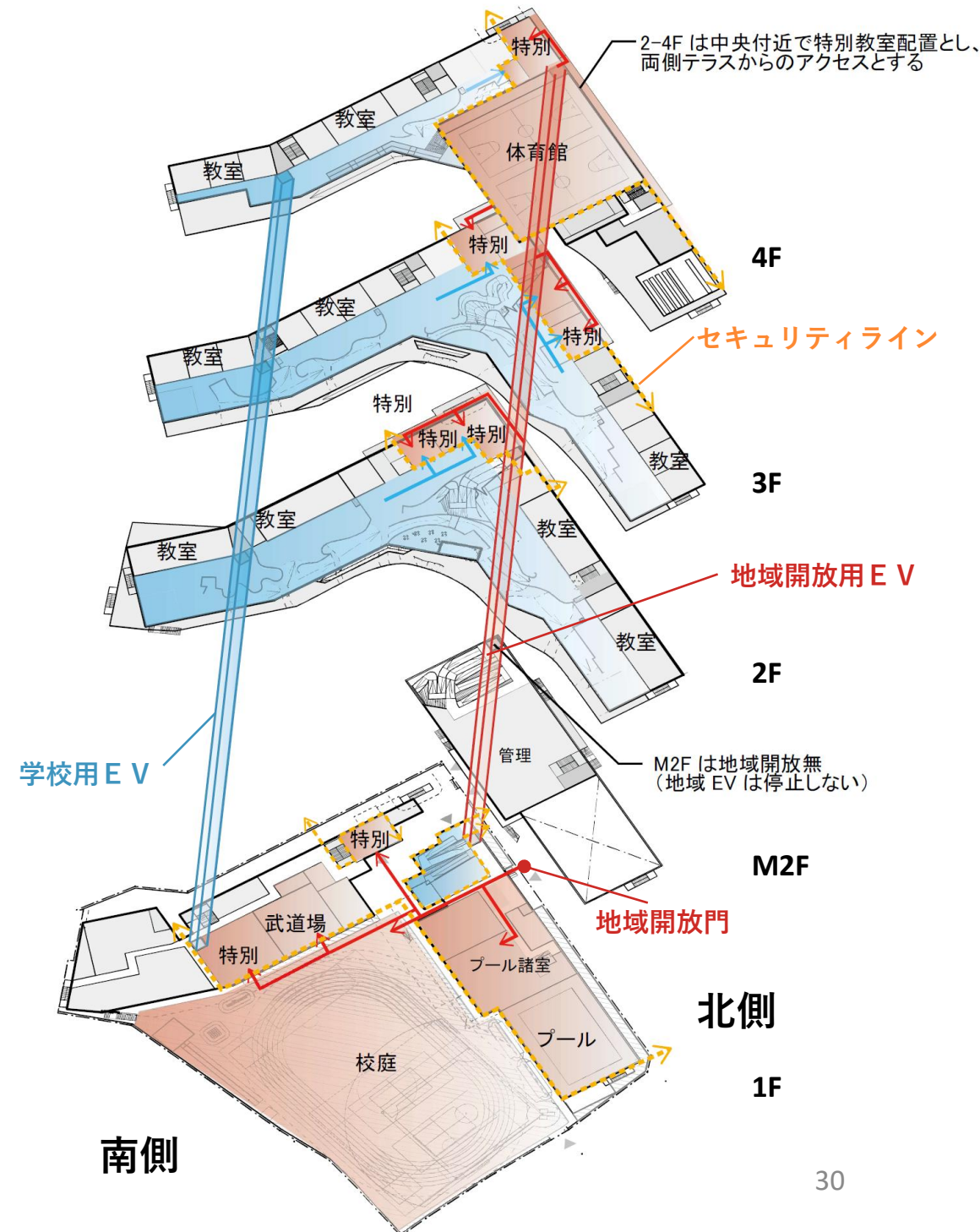
B. 多様な学びをささえる新しい教育環境

C. 基本計画段階における委員会意見への対応

地域開放利用者と児童・生徒の動線は交わらないよう計画します。

地域開放エリア

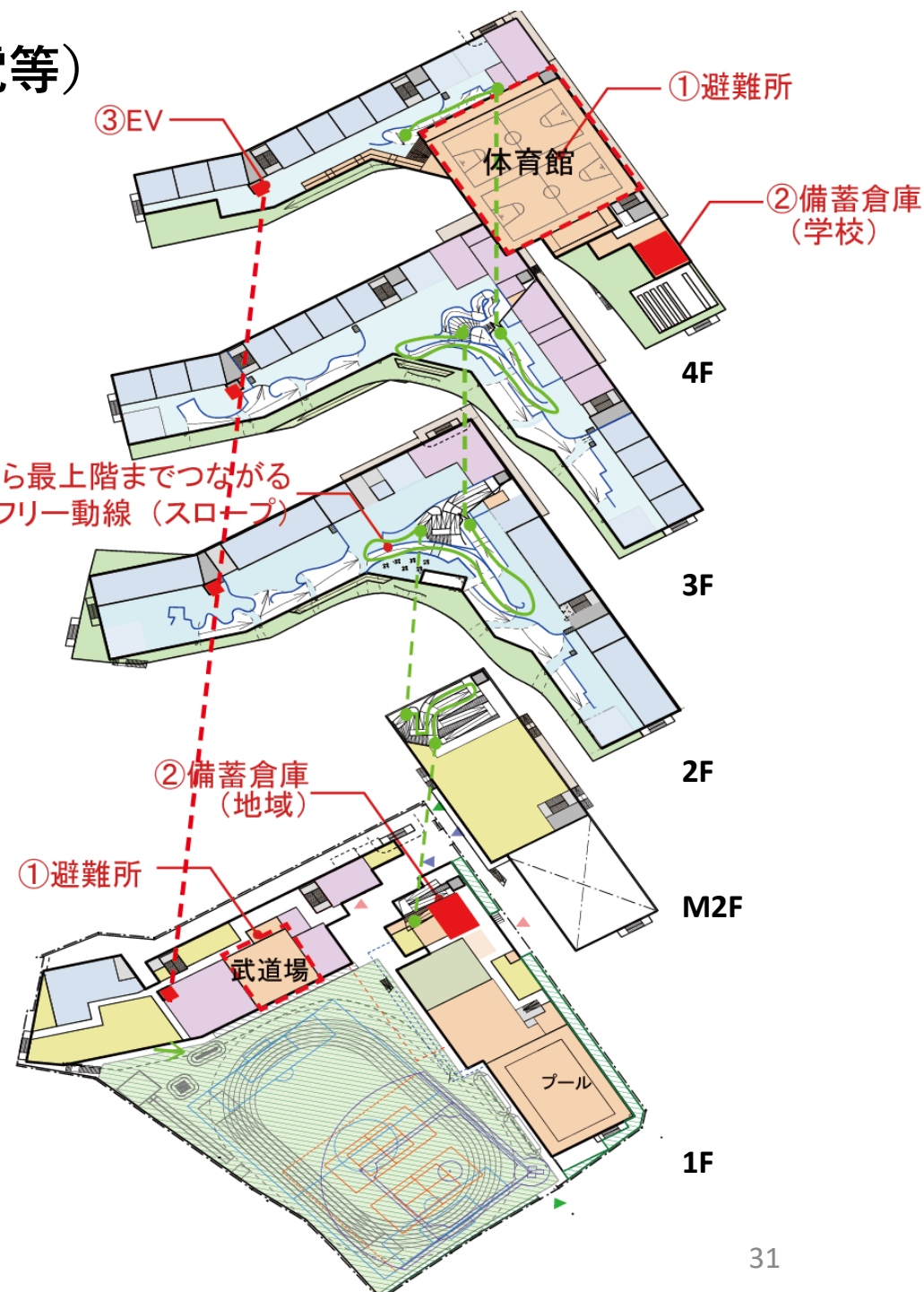
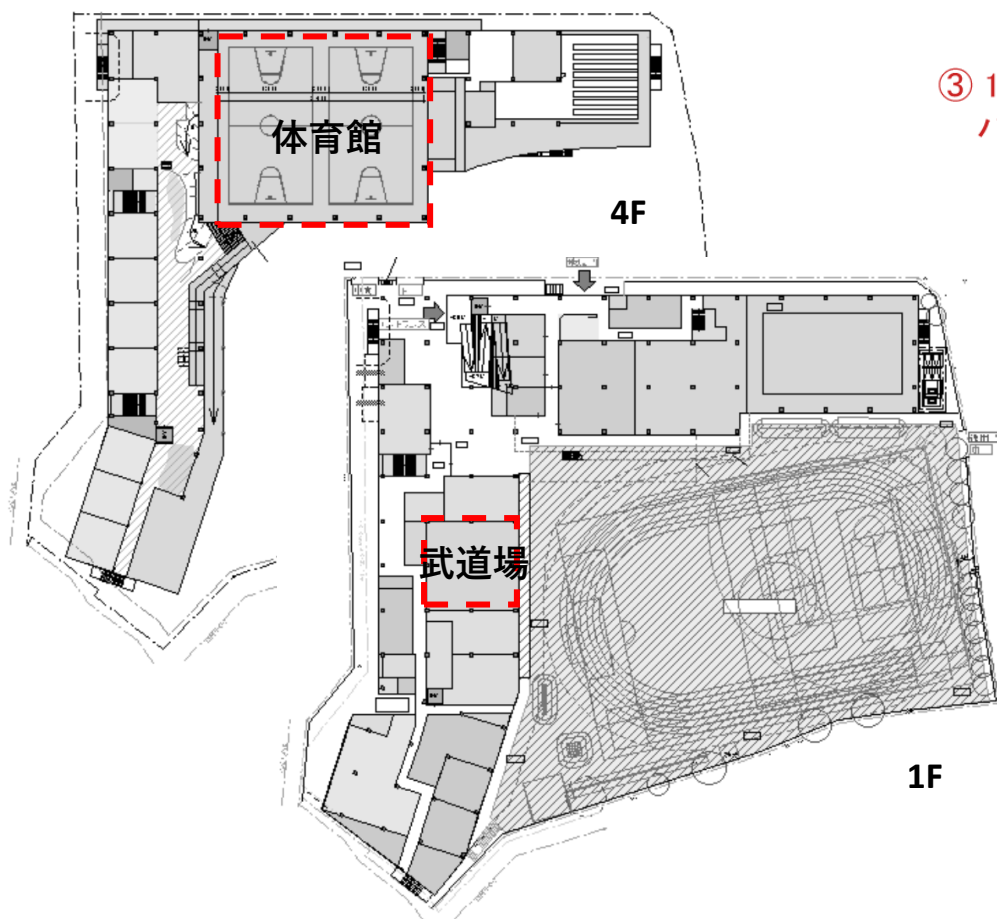
教室：普通教室



* 現在、設計検討中につき変更の可能性があります。

避難時利用（倉庫位置、動線、非常用発電等）

- ①4階の体育館だけでなく、1階に武道場を配置することで、避難所として利用することができます。
- ②体育館と武道場から近い位置に備蓄倉庫を設置します。
- ③スロープを使って各階移動ができます。
エレベーターは非常用発電機を整備することで、停電時也可以使用できます。



* 設計検討中につき変更の可能性があります。

建て替え準備委員会意見対応

項目	ご意見	現時点での案
図書館との連携	・授業で利用することがあるため、中央図書館側に出入口があるとよい。※セキュリティ計画とあわせて検討	・敷地南側の出入口設置を検討しています。
エレベーターの検討	・児童1クラス35人が乗れるサイズのエレベーターを検討。	・大型エレベーターの設置を検討しています。
既存校の歴史展示	・小中一貫教育校になるが、これまでの学校の歴史が分かるようにしてもらいたい。	・子供たちが日常生活で触れる場所に展示できるよう検討しています。
PTA室の位置	・現状の原宿外苑中学校のPTA室は4階にあるが、下の階にある方が利用しやすいため、設置場所は検討してもらいたい。	・使いやすい位置に配置できるよう検討しています。
楽器の運び方	・子ども達が階段を使って楽器を運んでいて危ないため、階段を使わずに楽器を運べるように、配慮をしてもらいたい。	・楽器が入る大きさのエレベーターを設置します。
・大雨時の冠水対策と正門の位置 ・敷地出入口の設え	・正門の位置について、現在の正門の位置は大雨の際に水没すること、交差点の近くは危ないこと、更にバス停があることを配慮して検討してほしい。 ・歩道が狭く、自転車等の飛び出しもあるため、登下校時の混雑緩和と安全性が確保できる設計としてほしい。	・建物が浸水しないよう検討しています。 ・児童・生徒が安全に登下校できるよう計画を行います。
雨天後の校庭利用	・現状校庭は水はけが悪く、雨天後の校庭利用に支障が出ているため、水はけのいい校庭としてほしい。	・校庭舗装と排水計画の中で、水はけに問題が生じない計画とします。
近隣との見合い	・西側のマンションとの見合いについて、配慮が必要。	・植栽帯などでの配慮を検討しています。